

《眠れる母と子》

写真監修／藤森武 伊勢和紙 31x25cm 原画制作 1948年

櫻井陽司自刻印章「狂人」＋藤森武直筆署名

平成24年の暮れ、櫻井陽司さんのアトリエが取り壊される直前、私はアトリエの荷物等の整理のために、仕事の合間に何度か其処を訪れていました。整理をする時間は限られており、荷物の移動や保管も何人かの方に協力して頂きました。取り壊しのため立入禁止とされた後にも、もう一度だけと言ってお願いし、その際に発見されたのが、ハガキ大の汚れた箱に入ったガラス乾板でした。其処に写し出されていたのは、1948（昭和23）年作《眠れる母と子》。原画は既に失われていて、印刷されたその作品を陽司さんはアトリエにずっと掛けていました。この度、生誕100年櫻井陽司展にあたり、発見されたガラス乾板を元に、この作品が67年ぶりに復元されることとなりました。写真監修は、ギャルリさわらびの展示に共感していただき、また写真家土門拳の直弟子だった藤森武さんです。現在、東北5県巡回中の「藤森武写真展 みちのくの仏像」では、日本のカミの姿としての仏像への眼差しがあり、師土門とは一線を画した写真家藤森の世界が表出されています。画家櫻井陽司と写真家藤森武がぶつかり合った火花の如く産み落とされた本作ですが、母と子、それを見つめる描者、それぞれの間を結ぶ深い愛情が、見る者の心を打ちます。（ギャルリさわらび 田中壽幸）